

# 議 事 録

平成28年第4回定例会

[一般質問]

平成28年12月12日（月）

開 議	
議 長	<p>皆さんおはようございます。</p> <p>本日の出席議員は16人につき、定足数に達しております。</p> <p>これから、本日の会議を開きます。</p> <p style="text-align: right;">(10:00)</p>
日程第1	
議 長	<p>日程第1 一般質問を9日、金曜日に引き続き行います。</p> <p>質問の通告がありますので、順次発言を許します。</p> <p>13番 一木哲美議員</p>
一木議員	<p>皆さんおはようございます。</p> <p>通告順に基づきまして、質問をさせていただきます。</p> <p>議長のほうに了解をいただきまして、皆様方お手元へ小学校運動会開催の会場ということで、3小学校の当日の写真を撮らせてもらっておりましたので、資料として提出をさせていただいております。5月の28日土曜日でございます。</p> <p>開催を予定されてありました3小学校の朝の早い時間の様子でございます。前日雨がかなり降りました関係で、各運動場、グラウンドはかなり水たまり等がございました。そういった中で、私も3小学校に出向きまして、状況等を確認させていただきながらの質問ということでございます。よろしくお願いいたしたいと思っております。</p> <p>それでは、早速質問に入らせていただきます。</p> <p>今年5月28日土曜日、三輪小学校、東小田小学校、三並小学校では運動会を計画されておりました。あいにく前日は雨天となりましたが、運動会当日雨が上がったので、早朝から先生方、PTA役員の方、他関係の方などが集まり、開催するか、順延するのか、各小学校では協議をなされました。</p> <p>三並小学校は順延としましたが、三輪小学校と東小田小学校は開催すると決定をなされました。私は、三並小学校の愛校会会長をさせていただいております関係で、三並小学校へ行きグラウンドの状態を見ましたが、本部席前の両サイドに水たまりがかなりあり、学校では協議を行い、順延に決めたと報告を受けました。</p> <p>次に、三輪小学校へまいりましたら、こちらでは決行されると聞きましたが、グラウンド及び保護者、住民のテント張り場はかなりな範囲で水がたまっていて、先生、PTA、住民の方など多くの方々で水たまりの水を除去されておりました。</p> <p>水たまりがひどいので、どうしようもないような状態にもかかわらず、なんとかしないと児童も競技などができないし、来られた保護者の席に張るシートも配置できなく、各場所でたいへんご苦勞をなされておりました。この状態で運動会ができるのかたいへん気になり、次に東小田小学校へ向かいました。</p> <p>東小田小学校でも運動会を開催すると聞きました。グラウンドを見渡すと三輪小学校同様にかかなりな範囲で水たまりがあり、先生、PTAの方々、保護者、住民の方々が水の除去や砂を搬入しながら整地作業を行い、保護者、住民のテントを張る場所も水たまりがひどく、同様に水の除去作業を行われ、たいへん苦勞なされておりました。こちらも運動会の開催ができるのかとたいへん気になりながら、再び三並小学校へ行き様子を先生へ伝え、順延でよかつと思いましたがと伝えたとところです。</p> <p>両小学校は当日運動会を開催されました。</p> <p>そこで質問に入りますけれども、各小学校グラウンドは雨水の排水対策が必要と考えられますが、整地などの整備改善は、運動会の開催後行われたものかを、まずお尋ねいたしたいと思っております。</p>
議 長	教育課長
教育課長	おはようございます。お答えいたします。

	<p>議員ご指摘のとおり、本年の小学校の運動会につきましては、雨天により三並小が2日後、中牟田小が次の日に開催したところであります。</p> <p>当日開催された三輪小学校、東小田小学校につきましては、除水した後砂を広げるなどして開催されました。</p> <p>ご質問の、整地などを事後行ったか、につきましては、具体的な対策は行っておりません。以上でございます。</p>
議 長	一木議員
一木議員	<p>それでは、質問をさらにさせていただきますけれども。</p> <p>天候不良ということがですね、今年の運動会が一番そういった状況が目当たりであり、たいへん苦勞されたわけですが、今後においてもこのような状況、事態がですね、発生するということを仮定をした場合にですね、たいへん気になるわけでございます。来年の運動会とかですね。</p> <p>そういったことで、天候不良時の運動会の開催のあり方について、現状でいいのかということ、気になっておりますのでお尋ねいたしますけれども。</p> <p>来年の運動会開催日の前までに整地と排水対策ができるのかということについて、お尋ねをしたいと思います。</p>
議 長	教育課長
教育課長	<p>排水対策を来年度というお約束はできませんけれども、この件につきましては、過去にも同じような質問があっており、学校施設等の整備は緊急性のあるものから優先順位を決めて整備したいと回答しております。この方針は現在も変わっておりません。</p> <p>教育課といたしましても、実態は把握しているところであり、総合計画の実施計画に計上しているところであります。今後この計画に基づき、財政面を考慮しながら計画的に進めていきたいと考えております。以上でございます。</p>
議 長	一木議員
一木議員	<p>それではお尋ねしますが、まず、この開催につきましては、それぞれ各小学校で決定をなされていただくということになっているのかなというふうに、100%そうかどうか分かりませんが、基本的にそうなのかなというふうに理解しているところでございますけれども。</p> <p>今年みたいな雨の翌日の難しい判断ですね、教育課、教育委員会など一緒に前もって、事前に判断をされ、例えば私思うには、翌日順延ということもありますけども、こういった場合は1週間ぐらい先に延ばすとかいったこと等もですね、検討してみる必要もあるんじゃないかなというふうに考えるわけでございます。</p> <p>来年の天候のことを言ってもですね、これは分かりませんが、こういったことがございましたし、来年も同じようなことが発生した場合にですね、それぞれ各学校でも迷われますし、結果的にはですね、グラウンドも相当傷みました。いろんなご苦勞もされました。</p> <p>そういったことが今後繰り返されないためにもですね、教育課、教育委員会等で、一度そういったことについてもお互い意見を交わしていただきながら、今後のことについてもですね、協議をしていただいたほうがいいんじゃないかなというふうに考えるわけでございますけれども、その点についての見解を求めたいと思います。</p>
議 長	教育長
教育長	<p>お答えいたします。</p> <p>学校行事であります運動会の開催のあり方につきましては、校長の教育課程編成権の範疇にありますので、校長が職員、保護者の意見、学校運営協議会での熟議、児童生徒の状況等を踏まえ、校長自らの判断で決定をいたしております。</p>

	<p>なお、天候不良時の運動会開催のあり方につきましては、先ほどご提案のありました、例えば1週間期間をずらすということも考えられますけれども、1週間順延することによって、その間の練習が必要になり、教育課程の計画的な実施に支障をきたすとともに、児童生徒の体力等にかかわる負担にも繋がるものと考えられます。</p> <p>以上のようなことも鑑みながら、校長が天候不良時の運動会開催のあり方を判断をいたしているところでございます。</p> <p>教育委員会といたしましては、現場の長である校長の判断を尊重して参りたいと、そのように考えております。以上でございます。</p>
議 長	一木議員
一木議員	<p>今、教育長のほうからのご答弁、ご説明をいただきましたけども、まさしくそのとおりの手順というふうに理解するところでございます。</p> <p>しかしながら、今年のようなことが、確率的には低いけども、来年、今後においてですね、発生すると。きちっと排水の処置等がなされただけならば、それなりに今年みたいな苦勞はしなくてでも、翌日等に開催されるようになるかと、なってもらいたいというふうに願うわけでございますけども。</p> <p>極端な判断をしますとですね、今年みたいなことがあつてはならないけれども、来年もあった場合ですね、たいへん学校側とか関係者の方は苦勞をなされていますしですね、ましてや泥水運びながら、整地をしながら、水たまりの水はなかなか取れないということで、翌日、その後も運動会の整地はですね、苦勞されたと思います。</p> <p>だから、世の中いろんな状況が発生しています。最近はゲリラ豪雨、それから台風被害とかいろんな自然災害も大きくなってきていますので、そういったことを含めてですね、前もって協議をいただくということも大事じゃないかなと思いますので、よろしくご検討いただきたいというふうに願っております。</p> <p>それでは、2つ目の質問に入らせていただきます。</p> <p>日本は特に今後、少子高齢化に既にもう突入してしまして、人口問題は本町においても切実な問題ということでございます。町長も次に向けての決意の中で、人口問題ということがこれからの大きな課題ということも申されましたように、私も一番の大きな課題は人口問題というふうに強く感じているところでございます。</p> <p>そういったことを含めて公有地の活用と若者支援ということで、質問させていただきたいと思います。</p> <p>質問の具体的な中身に入る前に、世界の人口ということで、皆さん方ご承知でございますけども、資料で、ちょっと手元に用意をいたしましたので確認をさせていただきます。</p> <p>11月の28日付の資料でございます。</p> <p>アメリカ国勢調査局と国連データからの推計ということでございます。11月の28日付ですけれども、世界の人口は増えているんですよね、日本は減少ですけど、増えているんです。73億6,610万7,009人ということで出ております。</p> <p>世界の人口は1分間に137人増えていることですね。1日で20万人、1年で7,000万人増えているという、そういったデータが出ております。</p> <p>世界中で1年に6,000万人の方が亡くなって、1億3,000万人の方が生まれているということで、差し引いて、先ほどの数字に戻りますけれども、7,000万人が増えていると。</p> <p>世界の人口の一番多いところは、ご承知のように中国でございます。中国からインドということですけどですね、中国が13億6,782万人ということで、中国は世界の中で一番人口が多い国と。2位が、インドで12億5,970万人と。それからぐつと下がって、3位以降がもう一桁になります。アメリカのほうでございますけども、3位が3億1,905万人ということで、もう3位はかなり少なくなります。</p>

10番目が日本でございます。日本は人口減少と言いつつも、人口は世界の中でも10位ということで、日本の人口が、今からお話をさせていただきますけども、11月時点で1億2,695万人ということで、前年同月に比べて16万人が少なくなっているということを言われています。

6年前までさかのぼりますと、110万人が減少していると。単純に6年で割りますと、1年間に18万3,000人ほどが少なくなっているということが言われています。ものすごく大きいですね。

毎年、日本では2,900人が生まれて3,282人が亡くなっているということで、毎日日本では380人が少なくなっているということでございます。ということで、日本が、人口減少がずっとこれからも加速していくということで、大きな国家的な問題、課題ということになるわけでございます。

筑前町もおかげさまで今のところは大きな人口減少はなくて、合併後ですね、一旦少し少なくなりましたが、今増えているということでですね、この点はありがたいわけでございますけども。

それでは、質問のほうに移らせていただきます。

公有地の活用と若者支援ということでございます。

筑前町総合戦略が平成27年12月に編集、発行されました。策定の趣旨では、日本全体が人口急減、超高齢化という大きな課題に直面する中で、地方においては働き手、担い手である若者の減少や地域の活力の創出などの問題が顕著となっており、自治体及び政府が一体となって、問題解決に向けて取り組んでいかなければならないとして、この総合戦略は、筑前町が次世代に向けて更なる発展を遂げ、人口減少や少子高齢化が急速に進む社会情勢においても高い持続性を確保していくために、今後目指していく町の姿や町づくりにおける基本目標を明確にするるとともに、中期的な施策分の基本方向、具体的な施策をまとめたものとなっております。

筑前町総合戦略は、平成27年度から平成31年度までの5年間に、重点的に取り組むべき施策について、人材、知恵、予算などを優先的に投入し、強力で推進するとして8つの施策、筑前町ハッピープランを示されました。

私はその中のポリシー4、田園回帰のための環境整備、移住などに関する内容の質問と提案を行いたいと思います。

筑前町総合戦略の人口ビジョンにおいては、これから45年先の2060年を対象期間として、町における人口の現況を分析し、今後目指すべき将来の方向性と人口の将来を展望するものとあり、筑前町においては2010年に約2万9,000人であった総人口は、2060年には2010年の約65%となる約1万9,000まで減少するということが見込まれるというふうなことでございます。

そのようなことで、町では様々な人口減少防止対策を強力で推し進めながら、2060年に2万6,500人程度を維持したいというふうを考えているわけでございます。

そのようなわけで、本町は人口問題に対応していくための方向として、まず、1つは、出生率の向上による自然動態を改善し人口減少に歯止めをかけ、人口規模の安定と若返りを図るとしております。

2つ目は、移住、定住人口の増加による社会動態の改善により、人口規模の確保を図るとしております。

ということで質問に入りますけども、本町では定住環境向上への取り組みの中で、遊休地の積極的活用、ポリシー7を掲げているわけですが、町営・公営住宅跡地また公有地などについて、基本的な計画をどのように考えているのか、また今後の取り組みについてということで、昨日の15番、14番議員の方からの質問がございました。

	<p>そのご答弁は、計画がなければ売却をしたいと。また、定住化を図りたいというふうに、ご答弁、ご回答をいただいたところでございます。</p> <p>ということで、この件は私がお尋ねしても同じようなことかと思われま。</p> <p>それで、私がお尋ねして提案をさせてもらいたいのは、人口減少及び流出、転出抑制対策として、公用地、町営住宅跡地などを若者移住者や町の住民の若い方、次男の方とか三男の方は分家をなされます。分家をする場合など、条件付きで公有地を提供する方法などを検討すべきと考えますが、この件について、見解を求めたいと思います。</p>
議 長	財政課長
財政課長	<p>議員言われました、提供するという考え方が、ちょっと私は分かってないんですが、基本的に前回の質問の中でも答えておりますように、公有地は利用計画がなければ売却して、定住化住宅の用地として販売したいということを考えております。</p> <p>提供するという考え方が、そういうこととちょっと違うのかなと思っておりますが、今のところ考えておることは、そういうことでございます。</p>
議 長	一木議員
一木議員	<p>提供するというのも受け止め方によってはですね、幅も広いかと思います。使っただけのようにしてあげるといふような意味合い等をですね、考えるわけでございますけども。</p> <p>こういったことについての取り組みは他でもされてある、似たようなことはですね。27年の8月5日から7日に、島根県の邑南町へ議員の視察にまいりました。このときで、いろんなことを定住支援ということになされてある中で、この町は、町内の遊休土地の活用を行い、ここの町は民間住宅建設をバックアップし、建設費の2分の1、最大500万円の助成を行い、10年後に町有地は無償譲渡されるというふうなこと等ですね、そういったことをなされてある、邑南町はですね。いろんなことをなされてある自治体はございます。</p> <p>私は、特に申し上げたいのは、人口減少は筑前町のこれからの、将来が減少していくというふうな、そういった想定試算をなされてございますけども、これは、現在は隣の朝倉市も東峰村ももう現状に入っていますし、筑紫野市または小郡市もこれから近い将来には減少に入っていくというふうな、そういったことが言われてございます。筑前町もまたそういった心配、不安等を抱えている中で、どこでもがやっているような対策ではですね、やはり人口増はなかなか厳しく難しいというふうに考えるわけでございます。</p> <p>筑前町においても、若い人たちの人口の流出が大きいんですね。そういった資料をいただいております。この筑前町の人口ビジョンの中でもですね。若い方の人口流出が多いと。</p> <p>なぜかと言ったら、やはり生活費が安い、利便性が高いところに向って行くということと、先ほどふれましたけども、次男、三男の方はどうしてもですね、お家をまた新たに建てたり、違うところに引っ越したりとかいうことをされるわけでございますけども、そういったことで若い方たちが流出しているわけですよ。ここをなんとか止めたいと。それとまた移住していただきたいということ等で、これは筑前町に限らず、どこでもがそういったことを一生懸命考えられることをやっています。</p> <p>考えられることをやっても大体似たようなことですよ。だからそれ以上のことをやはり、本当に人口流出をとどめたい、または移住者を増やすためには、それ以上のことをやはり考えていかなければ、なかなか厳しい、難しいということを感じるわけでございます。売却すれば1億円のお金が入ってくるかも分かりません。</p> <p>しかしながら、そういった若い人たちをここの筑前町にとどめていきたいなど、よ</p>

	<p>そからも入って来ていただきたいなということをいくら願っても。具体的なものがそこです、やっぱり伝わっていかなければ、なかなかこれは難しいんじゃないかなということをおもうんですね。</p> <p>だから、そういったことで、投資をさせていただきながら、筑前町の若い方たちがそういった土地を活用していただいて、条件付きでございますよ、あげるわけじゃなくて。そういったことで、この地域に残って住んでいただき、また他からも入って来ていただくということ等ですね、考えていく時期に、時代に入っているんじゃないかなというふうに思うんですね。</p> <p>売ったお金というものは、私たちもお金を手元に持てばなかなかそれは残りません。だから将来に向けての投資ということが、やはり必要であるんじゃないかなというふうに思うわけでございます。</p> <p>それから、結婚をされない未婚率も上昇しているということですね。これはもう筑前町を含めて全体的に未婚の方が増えていると。年齢が30以上で結婚するというふうなこともなっています。</p> <p>それから、結婚をもうしない男性、女性の方も増えているということですよ。子どもさんも段々少なくなってきましたし、人口減少になるわけです。</p> <p>そういったこと等々を考えた場合に、他の自治体がなされてある以上のことを、元気で体力があるときから考えていかなければですね、今、先ほど申しましたようなことには、なかなか現実的には厳しいんじゃないかなというふうに考えるわけでございます。そういったことで、こういった質問をさせていただいています。</p> <p>当然ながら、ただであげるよということではなくてですね、そういった提供をさせていただきながら、この筑前町に次男、三男の方も残っていただきたいと。また、よそからも入って来ていただきやすい環境をちゃんと整えないと、なかなか厳しいんじゃないかなということをおもうので、願って質問をさせていただいています。</p> <p>ということで、町長のほうから、この件についてのご見解をお尋ね申し上げたいと思います。いかがですか。</p>
<p>議 長</p>	<p>町長</p>
<p>町 長</p>	<p>お答えいたします。</p> <p>今、議員が質問されましたように、日本全体が減少社会で突入しております。その中でも本町は、前回の国調よりわずかではありますが増に転じたということはですね、やはりそれなりの努力があったと。もちろん地の利もございます。けれども、それでもやっぱり筑前町全体の方々が頑張ったから、この結果が出たのではなかろうかと思うところでございます。</p> <p>日本投資政策銀行というのがございます。あそこがですね、福岡都市圏の位置付け、定義付けをしております。これは、福岡都市圏という定義はですね、行政的に見る都市圏と、またそういった投資家が見る都市圏というのは違ってございましてですね、本町と基山町はですね、福岡都市圏に入るんです。</p> <p>その定義は何かというと、福岡市に通勤、通学する人の割合が何%以上は福岡都市圏として考えて、民間投資としても非常に可能性、ポテンシャルの高い町だというふうな位置付けをするわけなんです。</p> <p>一流のシンクタンクですから、そういった地域が本町辺りはやはり福岡都市圏的な意味合い、地の利を持つあるいは雰囲気を持つということだと思いますので、私はこういったことに、人口がわずかでも増加したことが、非常に民間投資を生みやすくなったと、そのようにも考えているところであります。</p> <p>それとやっぱり若者とか若い世代が本町に移入してもらって、あるいは本町から出て行った人がカムバックしてもらって、そういったのが、やはり町が魅力を発信しなければならぬと、町は元気な町なんだということを発信しなければならぬ。</p>

	<p>と同時に、若い世代は教育に非常に敏感であります。教育に対してどんな姿勢であるのかと、子育て支援はどうかということが、細かく今チェックされております。</p> <p>そういった面では何と言いますか、あまり即効性ではありませんけれども、教育をしっかりした町を教育委員会を中心にしてもらっていますし、様々にゴジラにしてもですね、筑前町は元気なだと、食の町づくりもやっている。そして何よりも雇用の場があるというのが、非常に大事だろうと思っております。こういった基本的なものを行政は取り組むべきではなかろうかと思っております。</p> <p>その部分の一部分として公共用地の問題がありますけれども、跡地についてはですね、議員も考えておられますように、町のほうも、財政課長も説明いたしましたけれども、若い世代を念頭に置いた売却を考えていきたいと、そのように考えているところでもあります。</p> <p>何よりも環境づくりが一番だと、そのためにバス停だって整備したんだと、町から通勤しやすいんだと。そういったことの総合力がやはり人口増に繋がっていくんだろうと思っております。以上でございます。</p>
<p>議 長</p>	<p>一木議員</p>
<p>一木議員</p>	<p>先に議員のほうからも、空き家対策の質問も出ておりました。当然ながらですね、私もこの空き家対策についてもですね、町としての計画をもって、空き家をぜひとも利用させてもらいたいという方にも、1人でも2人でも多く申し出をいただけ、そして空き家が活用できるようにということは、当然ながら思っています。</p> <p>併せまして、新築をしたいんだという方もおられると思います。おられますよね。そういった方たちがやはり新しくお家を建てるのに、筑前町はこういった制度があって、筑紫野市よりも筑前町のほうに新しいお家を建てたいんだというふうな気持ちになっていただくための、1つの町としてのそういった取り組みをですね、やっぱり外に発信をしていながら、人口増へも繋げていくということを、私は願うわけでございます。</p> <p>福岡市は人口が増えているんですよ。福岡県内でも福岡市がもう断然に増えているんです。若い方たちがお子さん連れで福岡市に集中して来るもんだから、保育所等がもう満杯で受け入れができなくて、昨年よりも受け入れの人員を少なくして、そして保育士さんたちも少ないから困っているということで、近隣の町村からも福岡市のほうへ保育士さん方たちが流れると、いうふうな現象が出ているということ、マスコミ等でも伝わるわけでございますけどですね。</p> <p>だからもう極端に、今のところは人口が増えている福岡市、近隣の町村は少なくなっていくということ等が現に起きていますしですね、これから10年先、20年先というなのは、まだ仮に想定に基づくところでもありますので、はっきりは分かりませんが、これまで近年の日本の人口減少から判断をしますとですね、筑前町も将来は人口減少に段々入っていくというふうなことを考えられてありますので、いろんな対策等が求められるというふうな考えるわけでございます。</p> <p>企業誘致、ヤクルトさんも来ていただけるということでですね、これは、本当にありがたい話でございますけども。今度、働く人たちもものすごく少なくなっていくということも言われております。働き手が確保できないという現象がこれから出てくるんですね。だから今、民間企業等では、もう外国のアジアのほうの方たちを雇い入れながらですね、働き手を確保しているということがいっぱいございます。</p> <p>だから、非常にこれまでと違った方向に世の中が、世界が進んでいるということをしかりと見極めながら、将来の判断をしていかなければならないというふうな考えるわけでございます。</p> <p>おそらく次の町長の4年間あたりはですね、そういった状況が大きく変わっていくことも考えられますので、しかりとそういったご判断をですね、していただきたい</p>



	<p>などと思います。</p> <p>土地を提供して、あげてしまうということじゃないんですよ。私が言っているのはですね。そういった土地を活用していただけるような環境づくりを、整備をいただきながら、若い方、そして次男、三男の方はですね、お家の狭い土地の中に、やっぱり土地のお金を少しでも節約するために、隣にお家を建てられて次男の方も住まわれているというお家もたくさん見ますと、できない方は出られてあります。</p> <p>通勤が、会社勤めの方が不便だからということじゃなくて、通勤可能なんだけども出られているんですよ。そういった近隣に、筑紫野市とかですね。こういったことが、こちらのまとめられた中でも述べられております。</p> <p>だから私が申していることはですね、今後しっかりと考えていっていただかなければいけない1つじゃないかなと思います。</p> <p>先ほどの空き家住宅のこの対策と併せましてですね、町の町有地を全部そういったことは、あけなさいということは言っていないです。1カ所でもそういったことで、筑前町はこういったことも取り組みますよということを外に向けてもアピール、町内の若い方たちにもアピールをということで、町が取り組みをしていくんですよということもですね、示していただくことも大事だと思いますけども、今一度町長、その辺りについて、ご答弁いただければと思いますけども。</p>
議 長	町長
町 長	<p>お答えいたします。</p> <p>私は嘉麻市にも行って、住宅政策を勉強させてもらいました。本当に自治体、自治体で事情が違うんですね。ものすごい税金を使ってですね、本当に1世帯でも2世帯でも移住してもらいたいと、本当に深刻度が違うんだなということは実感したところでございます。</p> <p>本町の場合は、本当に我々も感じておりますけれども、沿線沿い、国道沿い等々にはまだまだ住宅が建っております。それだけ民間投資が、うちはやりやすいということだろうと思っております。</p> <p>ですから、わが町の用途地域を設定しております。用途地域の中にはまだまだ空き地がかなりあるんです。その中にある程度住宅をですね、そちらのほうに誘導していくことが、町の財政面においてもコンパクトな住宅地ができていくと。</p> <p>いろんなところでですね、住宅地を広げますと、下水道、上水道、またさらなる環境を伸ばさなければいけないと。そういったことはなかなか今の減少社会においては厳しいだろうと。できればわが町は大きく3カ所、4カ所、朝倉市と繋いだような形でですね、用途区域、市街化区域等の連帯性を持っております。そこに誘致していく、その分のいろいろな事業等は、今後非常に重要になってくるんだろうと思っております。</p> <p>議員が言われますように、公共用地の空き地の問題についてはですね、今せっかく本当に地方創生、人口問題がクローズアップされておりますので、そこはうちならではのですね、民間を活かせる土地柄でございますので、民間を活用した形の住宅政策を、わずかな面積でありますけれども、取っていきたいなと思っております。</p>
議 長	一木議員
一木議員	<p>よろしく、そういったことも頭の中に据えていただきながらですね、進めていただきたいなと思います。</p> <p>誰でもですね、筑前町の今の良い環境状態を、状況をですね、保持していくことはみんなの願いでございます。しかしながら、これから起きようとしているですね、人口減少問題についてですね、みんながやはり知恵を出し合いながら、取り組んでいく必要があるかと願うわけでございます。よろしく願いいたしたいと思います。</p>

	<p>それでは、3点目の質問に入らせていただきます。</p> <p>合併後の事業検証について、ということで質問させていただきます。</p> <p>教育課のほうから学校教育施策などの整備事業状況一覧表資料を、議会にいただいたところでございます。こういった2部資料をいただきました。</p> <p>この資料は、平成17年度から平成27年度間における教育課所管に関する事業名、事業内容、事業費、財源内訳と事業の狙い。内容については、内容・効果等、他市町村との比較が分かりやすく的確にまとめられ、報告された。</p> <p>ハード事業が32事業項目、ソフト事業16事業項目終了となっています。</p> <p>取りまとめをされた集計では、事業費が40億1,739万円で、国と県の補助金9億1,735万円、合併特例債が21億4,930万円、その他起債、交付金など1億5,282万円、一般財源が7億9,792万円と報告されています。</p> <p>事業は、各小中学校給食棟工事、小中学校校舎改築工事、小学校のプール建設工事などがたいへん分かりやすく分類、報告され、事業の効果なども適切な報告内容となっています。</p> <p>教育委員会、教育課では、このような形式で報告されたことに、ありがたいと思っています。</p> <p>そこで質問をさせていただきますけども、この報告書でございますけども、教育課のほうで自主・自発的に作成されたものであるものかということ、まずお尋ね申し上げたいと思います。</p>
議長	教育課長
教育課長	<p>お答えいたします。</p> <p>年度ごとの事業一覧表につきましては、合併当初よりそういう事績と言いますか、それを残そうという部分で、当初からそういうデータを積み上げる方式の資料の整理の仕方をやっておりましたので、合併当初よりございました。毎年追加更新をしているような状況でございます。</p> <p>整備状況の関係、ソフト面につきましては、その一覧表を参考にしながら、町がいかに教育に力を入れているかということで、資料を作成したところでございます。以上です。</p>
議長	一木議員
一木議員	<p>それでは、お尋ねさせていただきますけども。</p> <p>合併事業というのは、教育課、かなり増えて多ございました。他の課でも合併事業はいろいろと取り組み実施なされてございましたけれども、他の課でもこのような、こういったまとめ方、このようにまとめた報告書作成など、今現在されようとされているか。また近々作成報告される計画等があるかどうかについて、お尋ねをしたいと思います。</p> <p>それぞれの担当課というわけにはいかんでしょうから、総務課長のほうからでもですね。</p>
議長	総務課長
総務課長	<p>お答えいたします。</p> <p>まず、今、教育課長のほうも申しましたようにですね、この教育の充実ということに、町長の思いもありまして、重要推進施策ということで、教育の充実を第1番目に掲げてあるところでございます。</p> <p>そういったことからですね、特に教育の事業については、ハード・ソフト面併せてですね、住民にきちんと取り組んだ内容を的確に知らせるためにも、そういうのをやったほうがよからうということで、作られた経過があります。</p> <p>他の課につきましても、同様に提出すべきとのご提案ですけれども、他の課の事業</p>

	<p>については、現在何も取りまとめはしておりません。</p> <p>今までは毎年度決算審査特別委員会です、資料として報告しておりますものがございます。法令等に定められたですね、一定基準のもとに、適正に資料は毎年報告をさせていただいておりますので、現段階では敢えて一覧表に取りまとめて示す予定等はしておりません。</p>
議長	一木議員
一木議員	<p>こういった質問に対しては、先だってですね、他の川上議員のほうからだったですか、合併後の検証ということで、こういったまとめられた資料等はこれまでもいただいているということですが、職員の方、自らが、本当に自分たちが一番分かっていることをですね、把握された内容の資料というのを、本当に私たちにも、受ける側としても非常に分かりやすい、現実性が非常に高いですね、欲しいものを提供していただいているということで、合併後10年を経てですね、次の段階に入っていく中で、それぞれの課におかれても、やはりこの10年間の合併特例事業、延長して15年ということになっていきますけども、まとめていただきながら、やはり議会に、そして町民の方へもですね、やっぱりきちっと報告するという事は、非常に分かりやすく、やはり大事なことじゃないかなと。それを取りまとめはまた全体のことになりま</p> <p>すけども。</p> <p>元々合併特例債関連の事業というものは、一番最初37、8項目の中で、そういったことをずっとやっていながらしていきますよという話がありました。そういったものが、今ですね、もう10年が過ぎて、次の新しい時代に向かっておりますけども、私どもはやはり、そういった合併前から、合併、そして今にずっと繋がっている中で、合併の検証ということで、こういった報告をいただくということは、非常に求めたいというふうに思うわけでございます。願うわけでございます</p> <p>そういうことで、そんなに大変な労力を要するというでもないと思います。今までのなされたものを集約していただければできるかと思われまので、ぜひともお願いしたいと思っておりますけども、この点についての見解を求めたいと思っております。</p>
議長	総務課長
総務課長	<p>合併特例債の一覧表というのが整理しておりますので、そういった面からの報告はさせていただきますと思います。</p> <p>その他のソフト事業とか、たくさんございますので、それは毎年出している今までのですね、決算の報告書が、あそこに詳しく出しておりますので、その点については、改めてはしないということで、ご了承をお願いしたいと思います。</p>
議長	一木議員
一木議員	<p>総務課長のほうから、今、そのようなご答弁、見解をいただきましたので。</p> <p>1つですね、合併で筑前町が取り組んだ事業がはっきりと目に見えると。そういったお金がどれほどですね、総事業費がかかって、特例債等をどれだけ使わせてもらってと、町の負担がどうなのかということあたりをですね、この時点で資料等をいただきながら、そして私は、願わくはそれぞれ担当所管でですね、まとめたものを、教育課のこういったまとめた資料に基づいて、こういったのをというふうなことを希望するわけでございますけども、それはまたいただいた資料の中で振り分けもしなければというふうにも思いますけども。</p> <p>そのことを1つ踏まえた上でですね、これからの筑前町の新しい、力強い町の発展へ向って行く。やっぱり資料に残していくことによって、それを参考として、また次へ向かうことの足掛かりになるというふうにも考えますので、よろしくお願ひ申し上げます。</p> <p>町長、何かございましたら。</p>

議 長	町長
町 長	<p>お答えします。</p> <p>新町建設計画、あの裏付けは合併特例債でございます。あの財源なくしては、あの計画は前へ進めなかったということは事実だろうと思っております。</p> <p>その90数億からの合併事業債を対象にした、あれはあくまで合併効果が出られるものでしか事業はできなかったわけですから、まさに合併による効果事業と。本当に道路整備まですべてありますけれども、その一覧表はですね、毎年整理しておりますので、その事業一覧を見られることによって、こういったハード事業をやっていたんだということになるかと思えます。</p> <p>ただ、合併特例債はご承知のとおり、ハード面だけでございます。ソフトは対象になっておりません。そういったハードをやったことによって、いろんなソフトができたということでございます。</p> <p>その辺のところはなかなか表現等が難しゅうございますので、あくまで住民の方にお知らせするのは、こういった事業をやったんだと、これも合併事業のおかげなんだということだけは、お伝えしていく必要があるかと思っておりますので、その資料はぜひ出ささせていただきたいと思っております。</p> <p>それと教育課のほうは事業一覧まとめていただきましたけれども、あれは私の思いもありましてですね、本当に本町は近隣の自治体の学校に比べまして頑張っているんだと、空調整備なんてどこでもやっている事業ではないんだよと。そういったものもしっかりやっているんだと。そして、電子黒板とかALTにしろ、それから特別教員にしろ、少人数学級だってうちは積極的に取り組んでいるんだと。そのことが、PRすることによってですね、人口対策にもなり得ると、さらなる町の誇りにもなり得ると、そういった思いで資料を作っていたんでございます。</p> <p>合併検証イコールということではございませんでした。その辺のことをご理解いただければと思います。</p>
議 長	一木議員
一木議員	<p>田頭町政2期8年、この中にはですね、合併後の、今申されますような新町構想計画の具体的な事業がですね、数多く実施なされました。どれを取ってもですね、立派に成し遂げられた事業でございます。その中でも教育課関係の事業が多くですね、ハード事業もたくさんございました。</p> <p>他の課におかれましても、まさしく同じような取り組みをなされたということですね、これは職員の皆さん方、また議会も一体となってですね、取り組み進めさせていただいた結果というふうに思います。</p> <p>合併して良かったと、そして田頭町政の下でですね、町政の下で、この2期8年の期間がですね、力強く推進されたということは、私どももしっかり受け止めさせていただきながら、また、次の3期目へ向けて頑張っていたきたいなと思えます。</p> <p>しかしながら、新しい問題、課題もですね、いろいろと感じるところが大でございます。この辺りをまたみんなが心、思いを、願いを1つにしながら取り組んでいき、筑前町がさらなる発展に向かって行くことを心から願いまして、一般質問を終わらせていただきます。以上です。</p>
議 長	これで13番 一木哲美議員の一般質問を終わります。
休 憩	
議 長	<p>ここで休憩します。</p> <p>11時より再開します。</p> <p style="text-align: right;">(10:50)</p>
再 開	

議長	休憩前に引き続き、会議を開きます。  <p style="text-align: right;">( 1 1 : 0 0 )</p>
議長	9番 山本久矢議員
山本議員	<p>もう11時ですので、おはようございますは遅いかもしれませんが、おはようございます。</p> <p>小中学校の平和学習について、ということで3点ほど質問させていただきます。また、質問の内容が若干前後するかもしれませんが、ご了承いただきましたと思います。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>大刀洗平和記念館まわり周辺、戦前ですね、戦前東洋一と言われた陸軍大刀洗飛行場が、もちろん皆さんご存じのとおりありましたが、昭和20年3月に米軍の大空襲によって、数多くの尊い命とともにその姿、飛行場また工場等が焼失しました。なくなりました。</p> <p>その後、昭和を経て、平成21年10月に戦争の悲惨さと平和の大切さ、尊さを多くの人たちに伝えるために大刀洗平和記念館が開館したところであります。</p> <p>開館から7年、全国から多くの人たちが訪れておられます。また、修学旅行等も、各種団体の方たちも訪れてあります。</p> <p>わが町の多くの方たち、子どもたちに記念館を訪れていただきたいと思っておりますが、意外と町内の方の来館が少ないように思います。町外の方たちのほうが多いと思います。</p> <p>平和教育は紛争解決の手段として、平和な状態を維持するためにどうすればいいのか、ということ学ぶのが教育だと言われております。しかも教育全体の目標の1つと言っても過言ではないと思います。</p> <p>というところで、質問に入らせていただきます。</p> <p>1番目の、平和記念館を利用した平和学習の状況等ということで、提出しております。その状況と言いますか、どのように行っているのかお尋ねしたいと思います。</p> <p>平和歴史を学び、平和を語り継いでいく、そのために平和学習、また平和記念館を活用しての学習は行われているのでしょうか。どのような内容で行われているのでしょうか、お尋ねいたします。</p>
議長	教育課長
教育課長	<p>平和学習の詳しい状況については把握していませんけれども、学校が平和記念館を活用して行う平和学習の状況について、お答えいたします。</p> <p>小学校では6年生が年1回、総合的な学習の時間で行う平和学習の一環として利用しております。中学校では3年生が年1回利用しています。</p> <p>平和記念館は小中学校ともに管内の展示物を見学や映画等の視聴を通して、地域に残る戦争の爪あとを身近に感じ、平和の大切さを改めて意識することができる貴重な学びの場となっております。以上でございます。</p>
議長	山本久矢議員
山本議員	<p>中学生は3学年あります。小学校は6学年ありますが、主に4年生と6年生だと思いますが、また、それ以外に学年として、小学校の学年として、平和記念館に訪れるなり見学等ですね、そういうのを行ってあると思いますが、その点について、ちょっとお答えをお願いいたします。</p>
議長	教育課長
教育課長	先ほど申しましたように、小学校は6年生のみ、中学生は3年生のみでございます。
議長	山本久矢議員
山本議員	<p>小学校は6年生のみとお答えいただきましたが、4年生とか高学年に入る学年ですね、そういう生徒たちに平和教育、記念館を訪れなくても平和教育というのを行って</p>

	<p>あるのかと、お聞きしたいと思います。</p> <p>また、できればですね、平和記念館がありますので、平和を語り継いでいく施設として、また、平和の発信基地としても役目があると思います。</p> <p>そのことは総合戦略にも書かれておりますので、6年生のみだけでなく4年生あたりからと、そのように思います。</p> <p>では、次にお尋ねしたいと思います。</p> <p>ぜひとも平和記念館を利用して、有効活用してですね、子どもたちに、同じことになりませうけども、活用して平和学習を大いにさせていただきたいと思います。</p> <p>では2番目の、平和記念館で中学生がボランティアガイドをしたとお聞きしております。この内容についてですね、意義について、教育長はどのように考えてあるんでしょうか、お尋ねいたします。</p>
議長	教育長
教育長	<p>お答えいたします。</p> <p>私からはですね、大刀洗平和記念館中学生ボランティア事業の意義等について、内容等についてはですね、私の答弁の後、課長のほうから答弁させたいと思います。</p> <p>今年で戦後71年目を迎え、戦争体験者もめっきり少なくなってきました。</p> <p>このような状況の中で、いかに、過去の悲惨な戦争から得た教訓や悲しい事実を後世に語り継いでいくかは、たいへん大きな課題となっております。</p> <p>今回の中学生を語り部とする大刀洗平和記念館中学生ボランティア事業は、この問題、この課題に真摯に応えるものであり、教育委員会といたしましても、たいへん高く評価をさせていただいているところでございます。今後ともすそ野を広げながら、継続して取り組んでまいるということでございます。主催されております社会教育委員の会の皆様方、あるいは関係者の皆様方に心からの敬意と謝意を表しておきたいと、そのように考えております。以上です。</p>
議長	山本久矢議員
山本議員	<p>今、教育長に、意義についてお返事をいただきました。</p> <p>では、中学生ボランティアガイドを企画した目的、教育長と重なる、課長がお答えられると思いますが、重なると思いますが、目的ですね。また人数、どのような経緯でボランティアガイドを、企画と言うと企画課になるかもしれませんが、どのように計画、企画した目的は、お尋ねします。</p>
議長	生涯学習課長
生涯学習課長	<p>お答えいたします。</p> <p>平成24年度に策定しました筑前町子どもの約束には、あいさつ、生活習慣、感謝、思いやり、命、郷土愛、志をテーマに、子どもたちの目指す姿を掲げております。</p> <p>その周知のためにポスターを各学校に提示し、子どもの集い等で啓発に努めてまいりました。</p> <p>しかしながら、現在の子どもたちは、いろいろな体験が不足していることもあり、子どもの約束を推進するにあたりまして、子どもたちが実際に体験する機会を提供することを考えました。</p> <p>そこで社会教育委員の会で、本年度は大刀洗平和記念館でのボランティアガイドを企画した次第でございます。以上でございます。</p>
議長	山本久矢議員
山本議員	<p>分かりました。</p> <p>ボランティアガイドの内容及び経過ということで、お尋ねしたいと思います。私も社会教育委員をやらせていただいたので、若干参加と言いますか、協力させていただきましたが、ほんの1日程度しか参加できなかったんですが、質問をさせていただ</p>

	<p>きました。</p> <p>では、中学生ボランティアガイドの内容及び経過ということで、実際にどのように行われたのかを、お尋ねいたします。</p>
議長	生涯学習課長
生涯学習課長	<p>お答えいたします。</p> <p>企画内容は、夏休み期間中に大刀洗平和記念館に来館された方に、記念館の各展示コーナーの説明をすることといたしました。</p> <p>三輪中、夜須中にボランティアを募集しましたところ、5名の中学生の応募がありました。7月25日に開校式、それから記念館見学を行いまして、7月28日には自分が選んだコーナーのガイド内容についての学習を行いました。そして8月4日に沖縄平和大使として来館した沖縄の中学生にガイドを行いました。この日がボランティアとしてのデビューでございました。</p> <p>その後、8月に2日間一般来館者へガイドを行い、そして閉校式も行いました。</p> <p>しかし、11月に小川県知事がふるさと訪問で平和記念館にも来館されることになり、11月3日文化の日にガイドとして活動しまして、そして11月14日に中学生ボランティアが小川県知事に対しましてガイドを行ったところでございます。</p> <p>そして、県知事からも激励の言葉等をいただいたところでございます。以上です。</p>
議長	山本久矢議員
山本議員	<p>たいへん素晴らしいことだと思いますが、ここで関連と言いますか、ここでお尋ねしたいと思いますが、何名公募されて、何名の応募が、先ほど5名だったんですが、10名枠ぐらいの想定で思われたのか、それをお尋ねします。</p>
議長	生涯学習課長
生涯学習課長	<p>お答えいたします。</p> <p>募集人数についてはちょっと把握しておりませんが、5名、三輪中が4名、夜須中から1名ということで、5名の応募がございました。以上です。</p>
議長	山本久矢議員
山本議員	<p>もう少し生徒たち、三輪中、夜須中の生徒が応募してくれたらなと思いますし、多くの方たち、来館者にも説明なり、また自ら平和についてなり、そのセッションについて詳しくなるなり、自分たち生徒たちなりにですね、平和を感じとっていただきたいと思います。</p> <p>では、素晴らしい事業ですけども、この事業でどのような効果があったんでしょうかね。来年度も実施されるのか、また、どのような形で募集されるのかをお尋ねします。</p>
議長	生涯学習課長
生涯学習課長	<p>お答えいたします。</p> <p>中学生はボランティアガイドをするために、家庭でも自ら練習をしてきたところでございます。そして実際にガイドを行う中で、いろんな人と出会い、褒められたりもしました。この体験を通して、学ぶ意欲、自尊感情の向上やチャレンジ精神が育成され、次へのチャレンジ意欲を向上させることができたというふうに考えております。</p> <p>また、町の歴史を知ることにより郷土愛を、何事にもチャレンジする気持ちを大切に作る志を、戦争を知ることにより命の大切さを学び、社会教育委員の会が策定した子どもの約束の推進を実践してくれたというふうに考えております。</p> <p>なお、平成29年度もまた実施の方向で考えておりますが、多くの中学生が参加されるようなチラシも作って、募集をしたいと思っております。以上でございます。</p>
議長	山本久矢議員
山本議員	<p>またしっかりと計画なり企画を立てていただいでですね、本当にこの事業はすばら</p>

	<p>しいことだと思いますし、多くの子どもたち、生徒たちに平和を学んでほしいと思います。</p> <p>また、ボランティアガイドにですね、参加してくれた生徒たちにとっては、たいへん良い経験なり体験ができたと思います。よろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>3番目に移りたいと思います。</p> <p>先ほど生涯学習課のほうから平和大使が来町されたということで、若干説明がありましたが、どのような内容また形で行われたのか、またこの事業はですね、今後継続するのかということで、生涯学習課のほうから、来年度も行う予定であるということをお聞かせくださいけれども、平和大使について、この事業をですね、ボランティアガイドだけじゃなく、この事業を継続されるのかをお尋ねします。</p>
議長	企画課長
企画課長	<p>お答えいたします。</p> <p>戦時中の沖縄戦ですね、民間人も含め多大な犠牲があった沖縄からですね、平和大使ということで来ていただいております。沖縄の平和への関心も高く、平和の希求の取り組みも積極的に進められております。</p> <p>そういったところで、これまで広島や長崎といったところに県外研修にですね、沖縄市の平和大使が行っていただけですけれども、昨年より筑前町の平和記念館と地元の中学生と平和交流をやりたいということで、来ていただいております。</p> <p>筑前町の中学生にとっても、非常に刺激のある交流、効果のある交流だったというふうに思っております。</p> <p>基本的に平和大使につきましては、沖縄市がやっておる事業でございますので、その意向も踏まえてということになるかと思いますけれども、筑前町としては、昨年、今年と来ていただきましたので、来年以降もぜひ来ていただいておりますので、交流を深めていただきたいと思いますということをお願ひしていただいております。</p>
議長	山本久矢議員
山本議員	<p>企画課長から今お答えがございましたが、この平和大使については、たいへんすばらしい事業だとは思いますが、しかし、来年度も沖縄から平和大使が来ていただくような企画とか計画ということでございますが、今後どのようにされようとしているかということ、私はですね、今後平和大使の交流をすべきではないかということで、交流には間違いはないんですが、例えばこちらのほうから、また平和大使を公募してというか、募集して、鹿児島や沖縄ですね。鹿児島には知覧平和記念館がありますが、また、沖縄等に平和交流使節団と言いますか、そういう交流団を作って、こちらのほうから出向くような企画はないのでしょうか、お尋ねいたします。</p>
議長	企画課長
企画課長	<p>お答えいたします。</p> <p>沖縄平和大使との今後の対応については、先ほどもちょっと回答させていただきましたけれども、沖縄市の意向を踏まえて、積極的に対応してまいりたいというふうに思っております。</p> <p>それから、相互交流の件についてでございますけれども、有意義な取り組みであるとは思いますが、筑前町ではご存じのとおり、大刀洗平和記念館の運営の充実、戦跡の保存や筑前町の多くの小中学生も応募していただいております平和のメッセージコンテスト、それから、先ほど説明ございましたような中学生のボランティアガイド等々の多くの平和推進事業を行っておりますのでございます。</p> <p>相互交流につきましては、事前学習も必要でございますし、事務局体制、財源等の課題もございまして、また、平成24年まで行っておりました沖縄を訪問するフレンドシップあさくら、甘木朝倉少年の船につきましても、いろんな課題等々ございまして、</p>



	<p>終了した経緯もございます。</p> <p>先ほどの相互交流につきましては、今後の検討課題として調査研究をしてみたいというふうに思っております。</p>
議長	山本久矢議員
山本議員	<p>分かりました。ありがとうございます。</p> <p>中学生ボランティアについて、1つ質問というかお尋ねしたいと思います。</p> <p>5人の中学生ボランティアにアンケートと言いますか、感想文的な部分は取られたと思いますが、その内容について、若干お分かりだったらお答えをお願いしたいと思います。これはどこの課になるんですかね。</p>
議長	生涯学習課長
生涯学習課長	<p>先ほどお答えしました学ぶ意欲とか自尊感情ですね、繋がったということを申しましたが、中学生自身も最初応募したときには、入場券を配るとか、そういうことで思っていたと。</p> <p>ところが、実際は来館された方にガイドするようなことになって、本当に自分も最初はびっくりしたけれども、いろんな自分で勉強する中で、先ほど言いましたように、いろんな人と出会って、褒められたりもしたということですね、このボランティアガイドに応募して非常に良かったということで、また、家族の方もですね、その中学生の家族の方も、一緒に来館されたり等ですね、されて、非常に良かったということで聞いております。以上でございます。</p>
議長	山本久矢議員
山本議員	<p>ありがとうございます。分かりました。</p> <p>では、現在の、もちろん筑前町の町民だけでなく多くの方たちが、現在戦後生まれの方が多くなってきております。もちろん経験者もおられますが、戦争を知らない世代となっており、何と言うんですかね、平和の尊さなり命の尊さがちょっと薄らいできているような感じもいたします。</p> <p>平和の尊さを風化させないためにも、様々な平和事業を通して、再び戦争を繰り返さないというような、さらなる学習と言いますか、特に小中学生には、そういった平和学習を今後ずっと続けてほしいと思っております。</p> <p>また、わが町は、非核恒久平和宣言都市として発している筑前町です。先ほども申しましたが、特に小中学生への平和学習、ボランティアガイドを、また平和大使使節団なりを企画なり、また今後とも続けてほしいと思います。絶対に争い事は良くありません。すべての問題ですね。</p> <p>世界各地で国同士の紛争、戦争、また地域での紛争等もあっておりますので、せめてわが町、わが国だけでもですね、そういう平和の大切さなり命の大切さを、子どもたちに学ぶ機会を多く与えてほしいと思います。</p> <p>これで、私の一般質問を終わります。</p>
議長	<p>これで、9番 山本久矢議員の一般質問を終わります。</p> <p>これにて一般質問を終結します。</p>
散会	
議長	<p>本日は、これにて散会します。お疲れさまでした。</p>

(11:28)